

福医保 社療健



健康、それは かけがえのない財産

健康は、豊かな日常生活を過ごすための基本となる財産です。本村では「自らの健康は自ら守る」を合言葉に、健康まつりや健康ゆんたく会議等を開催し健康意識の高揚に努めています。また、生活習慣病を防ぐための啓発活動を各地域において担っていただく「健康づくりサポーター」の養成を平成二三年度からスタートしたほか、糖尿病や腎不全等が重症化しないよう保健師や栄養士による健康相談にも力を入れています。

老人福祉については、老人福祉センター「セーラ苑」を拠点とした老人クラブ活動や、各公民館で「ゆいまる共生事業」を展開しています。また、地域包括支援センターでは高齢者を介護・福祉・健康・医療などさまざまな面から総合的に支える活動を行っています。



平成 26 年度 健康づくりサポーター



老人福祉センター セーラ苑



読谷村診療所

読谷村診療所は、一九七八年に医療機関として戦前戦後を通じて初めて開所しました。以来、村民の医療拠点として定着し、重要な役割を果たしています。また、二〇〇四年四月には介護保険法の施行に伴い介護保険制度による通所リハビリテーションを開所し、介護の必要な村民の心身の機能の維持回復を図り、日常生活の自立を助けるサービスを提供しております。

読谷村診療所の一帯は、元来米軍基地でした。敷地面積は、一万二千坪。返還後、跡地利用計画を策定するなかで、医療福祉の拠点とする構想をまとめ、今では県立救護園、都屋の里、村立生き生き健康センター等が建設され、医療福祉の拠点として大きく転換しました。

健康増進センター

二〇〇八年四月、村民の健康保持及び増進のための施設として健康増進センターがオープンしました。同施設は専門家の指導のもとでトレーニングを行うことができ、生活習慣病の予防・改善に寄与しています。開設から一年半で利用者が一〇万人を突破するなど、多くの村民に利用されています。



大きく広がる 福祉の輪



お年寄り、子ども、障がいのある人もない人も、みんなが住み慣れた地域で、生き生きと暮らせる村こそ私たちの大きな目標です。

そのためには、村民の一人ひとりがお互いを大切にする「福祉の心」を持ち、実践することが求められています。それはまた、時間を越えて受け継がれるべき大切なものであります。

福祉活動の中心的な役割を担う社会福祉協議会、民生委員・児童委員ほか、多数のボランティアの方々がある福祉活動に頑張っています。また、地域活動支援センター「みつ葉」は、障がい者の活動の拠点とし、障がい者支援活動を展開しています。



読谷村総合福祉センター



子育て支援センター、読谷村保育所



地域活動支援センターみつ葉



ファミサポフェスタ

世代をこえた 思いやりユイマイル

村民が健康でやすらぎのある暮らしを築くため、きめ細かい多様な福祉サービスを進めています。

それには各世代が一丸となって「共に生き、共に支えあう福祉づくり」が大切です。福祉のむらのキーワードは「ユイマイルの心」です。



福祉納涼まつり



まだまだ若い！読老連運動会



よみたん福祉運動会